

小山町人口ビジョン【概要版】

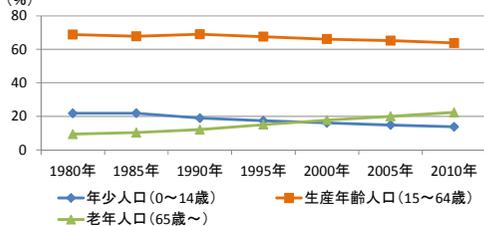


人口の動向

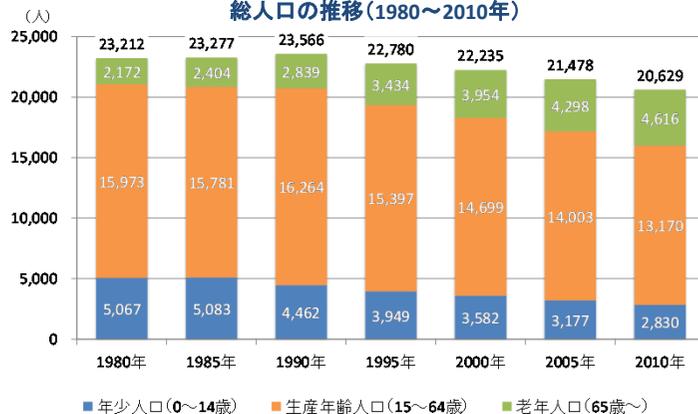
総人口：人口減少・少子高齢化の進行

- 総人口は1960年の約29,000人をピークに減少
- 年少人口(0~14歳)、生産年齢人口(15~64歳)は減少傾向にある一方、老年人口(65歳~)は増加傾向
- 2015年10月1日現在、総人口は19,371人

年齢3区分別口比率の推移(1980~2010年)



総人口の推移(1980~2010年)



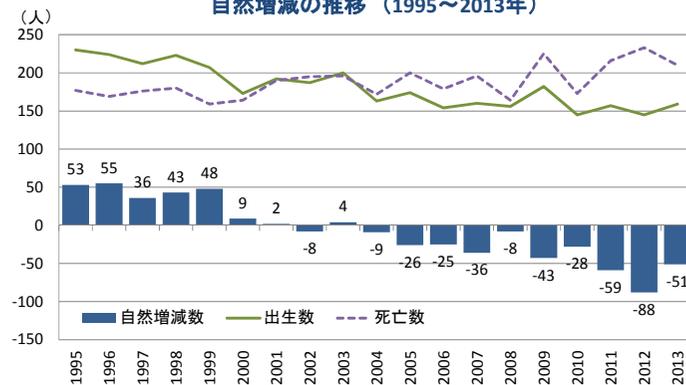
自然動態：出生が死亡を下回る自然減

- 2000年頃より出生数が死亡数を下回り、自然増減はマイナスに推移
- 合計特殊出生率は減少傾向から、一転増加へ(2008~2012: 1.50)

合計特殊出生率の推移(1983~2012年)



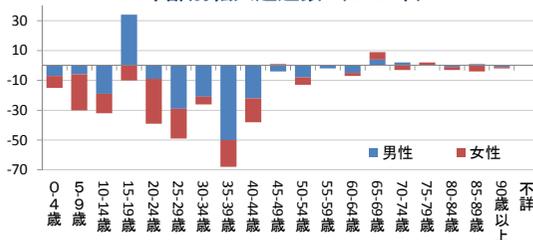
自然増減の推移(1995~2013年)



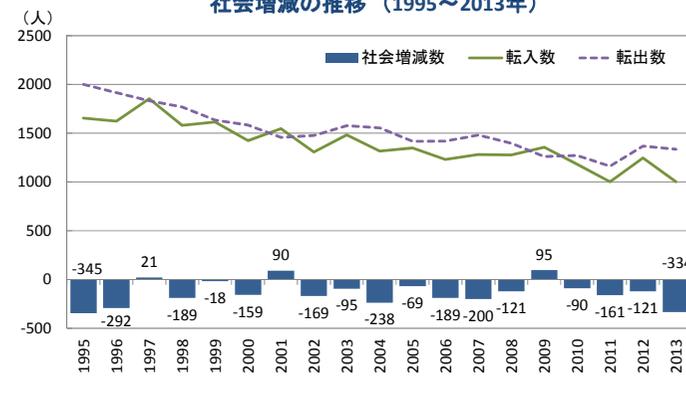
社会動態：転出が転入を上回る社会減

- 転出数が転入数を上回る転出超過が継続
- 特に20~40代前半で転出超過が大きい
- 男性10代後半の転入超過は自衛隊関連の移動が影響

年齢別転入超過数(2013年)



社会増減の推移(1995~2013年)



人口の将来展望(2015~2060年)

中長期的展望(2015年~2060年)

現在の人口動向が2060年まで継続した場合、小山町の総人口は約10,500人まで減少する見込み(国の推計・社人研準拠)

【人口減少が地域に与える影響】

- 町内の産業やサービスを支える担い手の不足
- 消費需要の縮小に伴う町内の経済活動の衰退、雇用機会の損出
- 高齢化の進行に伴う社会保障関連支出の増大
- 保育所や小学校等の子育て・教育関連施設のあり方の変化
- 行政の財政状況の悪化 ほか

よりよい居住環境を求めて、一層の人口流出が進む「人口減少の負のスパイラル」

目指すべき将来の方向

●自然減への対応

- 若い世代の結婚・出産・子育ての希望を実現し、出生数の増加を図る
- 年少人口・生産年齢人口・老年人口のアンバランスを解消する
- ⇒合計特殊出生率の向上 2020年に1.72※、2030年に2.07を達成 ※町民希望出生率

●社会減への対応

- 町内で住み・働くことができるような雇用の場の創出を図る
- 居住環境を整備することで、町内人口の定住や小山町出身者のUターン、町外からの移住を促進する
- ⇒三来拠点事業による人口増加 事業に伴う転入数：約2,100人(2025年までに)
- ⇒社会減の抑制 転出超過数 2014年：△218人⇒2020年：0人(転入・転出が均衡)

目標

2060年に人口17,000人程度を維持する

